

肱川水系の魚類 (3)

辻 幸一*

著者は肱川水系の魚類についてこれまでに42種を報告している(辻:1991, 1993a)。今回、新たに採集または観察された9種を報告する。また、クボハゼについては近年種名が変更されたので訂正する。なお、肱川水系からはこれまでに72種が報告されているが(伊藤・水野:1977, 水野:1978, 1979, 1987, 1988, 辻:1991, 1993a)、本報によりコウライモロコ・コトヒキ・サツキハゼ・ウキゴリの4種が初めて記録され、合計76種となった。

今回から報告に用いた標本は徳島県立博物館に登録・保管した。種類ごとに学名、標本番号(TKPM-P:徳島県立博物館魚類標本)、採集年月日、標準体長(SL)、採集河川名および環境庁自然環境保全基礎調査用メッシュ番号(グリッド番号)を付した。種の同定は中坊編(1994)により、学名は川那部・水野(1989)に従った。また、前報で行った「生活環による淡水魚のグループ分け(後藤:1987)」についても付記した。

本報を作成するにあたり、採集したコウライモロコとウキゴリを譲っていただいた愛媛県立大洲高等学校肱川分校の河野薫教諭と、魚種の同定に関するご指導ならびに校閲をしていただいた愛媛県中予水産試験場の清水孝昭氏に深く感謝の意を表します。

1 タモロコ *Gnathopogon elongatus elongatus* (Temminck et Schlegel), TKPM-P2001, 1992.3.30, SL:46.8mm, 肱川支流矢落川(5032-24-36), 写真1.

本種は1対の口ひげを持った小型の魚で、各地の池や水路、河川中・下流域で普通に見られる。肱川支流の矢落川下流で1992年3月に1尾採集された。県内では重信川、肱川(水野:1987)および岩松川(伊藤・水野:1978)で記録されている。純淡水魚。

2 モツゴ *Pseudorasbora parva* (Temminck et Schlegel), TKPM-P2002, 1992.10.4, SL:60.8mm, 肱川支流矢落川(5032-24-45), 写真2.

本種は上向きの小さな口を特徴とする小型の魚で、各地の池や水路、河川下流域で普通に見られる。肱川支流の矢落川下流で1992年9月と10月にそれぞれ1尾ずつ採集された。県内では新居浜市の国領川と東川(水野監修:1988)、重信川、肱川(水野:1987)で記録されている。肱川での生息数はそう多くないと予想される。純淡水魚。

3 コウライモロコ *Squalidus chankaensis* subsp. TKPM-P2003, 1992.9.15, SL:100.1mm, 肱川中流赤岩橋上(5032-15-64), TKPM-P2004, 1993.6, SL:87.6mm, 肱川中流赤岩橋上(5032-15-64), 写真3.

肱川町の中流域で1992年9月に2尾、1993年6月に1

尾、釣りにより採集された。3尾とも体型や口ひげの長さおよび体高比(21~22%)などがコウライモロコの特徴と一致した(細谷:1993)。本種は肱川水系から初記録である。他水系から入ってきた移入種と考えられる。純淡水魚。

4 スズキ *Lateolabrax japonicus* (Cuvir), 標本なし
本種は全長1m近くに成長する大型魚で、若魚が季節や成長に伴って内湾から河口域や淡水域に侵入してくる。1994年10月に河口から約3km上流の大和橋付近で、体長約45cmの本種の死骸が観察された。状況から見てこの付近で死んだ個体と考えられた。県内では新居浜市の尻無川と東川(水野監修:1988)、重信川、肱川(水野:1987)および岩松川(辻:1983, 1986)で記録されており、広範囲に分布していると考えられる。肱川河口は本種が釣れる場所として知られている。周縁性淡水魚(遇来性淡水魚)。

5 コトヒキ *Terapon jarbua* (Forsskal), 標本なし
本種は体側に湾曲した3本の縦条模様があるのが特徴で、幼魚期に河口域に侵入してくる。1994年10月に河口から約3km上流の大和橋付近で幼魚が遊泳しているのが観察された。同属で本種と同様に河川へ侵入してくるシマイサキ *T.oxyrhynchus* (Temminck et Schlegel) は肱川で過去に記録されているが(水野:1987)、本種は初記録である。周縁性淡水魚(遇来性淡水魚)。

6 サツキハゼ *Parioglossus dotui* Tomiyama, 標本なし
1994年6月25日の干潮時に河口から約1.5km上流の淵でピリンゴや他のハゼ科稚魚とともに本種が遊泳しているのが観察された。本種は肱川水系から初記録である。この他にも1994年6月12日には吉田町鶴間川河口でカキ殻の中から本種の雌雄の成魚が採集された。同年7月21日には保内町宮内川河口で岸近くを遊泳しているのが観察された。また、岩松川河口からも本種が採集されている(辻:1993b)。この結果から、本種は宇和海と瀬戸内海の内湾や河口域にかなり広範囲に生息していることが予想される。周縁性淡水魚(汽水性淡水魚)。

7 ピリンゴ *Chaenogobius castaneus* (O'Shaughnessy) TKPM-P2005, 1993.8.27, SL:38.8mm, 肱川河口(5032-33-09), 写真4.

本種は、頭部感覚孔が3対開口することで、同属で近縁のジュズカケハゼ *C.laevis* (Steindachner) およびシンジコハゼ *C.sp.3* と区別できる。1993年8月と1994年6月に河口から約3km上流の大和川と本流の合流地点で干潮時に多数群れているのが観察され、採集された。県

* 愛媛県立八幡浜高等学校 八幡浜市松柏丙654(〒796)

内では新居浜市の国領川などの4河川 (水野監修:1988), 大三島町台本川 (水野:1989), 重信川, 肱川 (水野:1987) および岩松川 (辻:1983, 1986) で記録されており, 河口汽水域には広く分布していると考えられる。周縁性淡水魚 (汽水性淡水魚)。

8 ウキゴリ *Chaenogobius urotaenia* (Hilgendorf)
TKPM-P2006, 1995.3.24, SL:74.5mm, 肱川中流赤岩橋上(5032-15-64), 写真5.

本種は浮くハゼ (ゴリ) という名称が示すように, 水底に定位する多くのハゼ類と異なり中層に浮かんで静止していることが多い。ウキゴリ類は淡水型・中流型・汽水型と呼ばれて区別されていたが, 現在ではそれぞれウキゴリ *C. urotaenia*・シマウキゴリ *C.sp.1*・スミウキゴリ *C.sp.2* の3種に分けられている (石野:1987)。1994年8月に中流域の淵で本種を水中観察した。また, 1995年3月24日に同じ場所で4尾が採集された。本種は, 背鰭に黒斑がある点で他の2種と区別できる。岩松川からは背鰭に黒斑が無いスミウキゴリの生息が報告されているが (辻:1986), ウキゴリは県内からは初記録である。通し回遊魚 (両側回遊魚)。

9 クボハゼ *Chaenogobius scrobiculatus* (Takagi),
TKPM-P2007, 1993.3.23, SL:27.6mm, 肱川河口(5032-33-19), 前報 (辻:1993a) の写真8.

ウキゴリ属の2種、クボハゼ *C.scrobiculatus* とキセルハゼ *C.cylindricus* Tomiyama は形態差が明確でないという理由から同一種として扱われ, キセルハゼの名称が使われていた (明仁親王:1984)。前報 (辻:1993a) ではそれに従って肱川河口で採集された2尾についてキセルハゼの名称を使用した。その後, 鈴木・増田 (1993) によりクボハゼとキセルハゼは別種であることが明らかにされた。そこで, 標本を再検討したところ, 体側下半部に濃褐色横帯があることや尾鰭下部に暗色斑があることなど, クボハゼの特徴とよく一致した。また, 過去に岩松川河口で採集された標本を調べたところ, すべての標本について肱川産の個体と同様な特徴が見られた。この結果, 肱川 (辻:1993a) と岩松川 (辻:1986) からキセルハゼと報告された魚種はすべてクボハゼであることが判明したので, ここに訂正する。周縁性淡水魚 (汽水性淡水魚)。

10 イダテンギンボ *Omobranchus punctatus* (Valenciennes),
TKPM-P2008, 1994.6.26, SL:60.3mm, 肱川河口(5032-33-29), 写真6.

本種は各地の岩礁性海岸やタイドプールに生息しており, 全身が黒褐色で頭部に皮弁のない小型の魚種である。1994年6月に河口から約1.5km上流のテトラポットや岩などに付着したカキ殻の中から干潮時に採集された。本種は海産の魚であるが, 採集個体を淡水で飼育したとこ

ろ1週間生き続けたので低濃度海水に強い種と考えられる。周縁性淡水魚 (週来性淡水魚)。

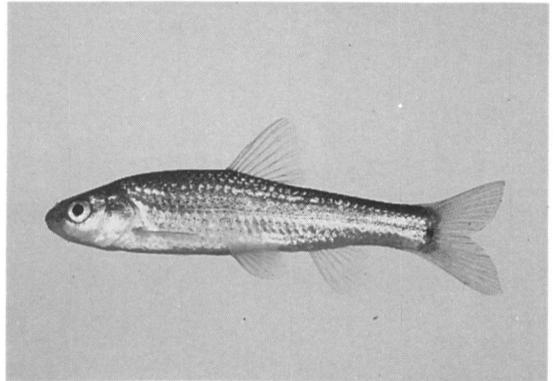


写真1 タモロコ *Gnatopogon elongatus elongatus*
TKPM-P2001, SL:46.8mm

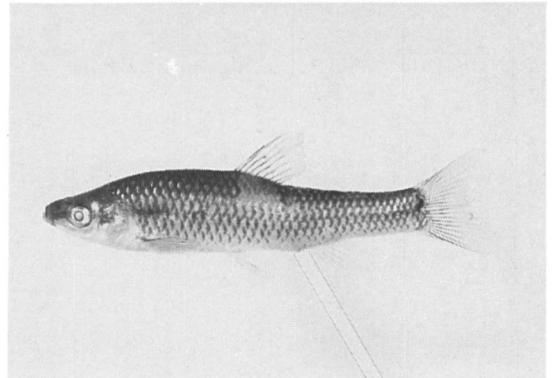


写真2 モツゴ *Pseudorasbora parva*
TKPM-P2002, SL:60.8mm

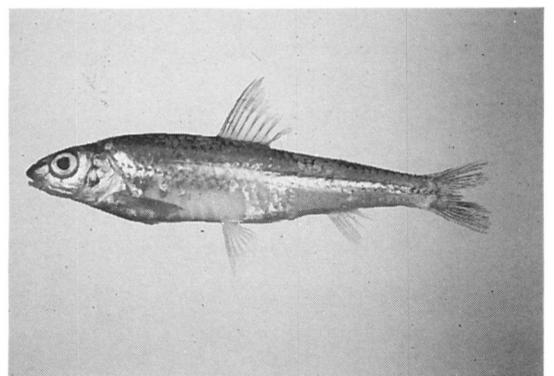


写真3 コウライモロコ *Squalidus chankaensis* subsp.
TKPM-P2004, SL:87.6mm

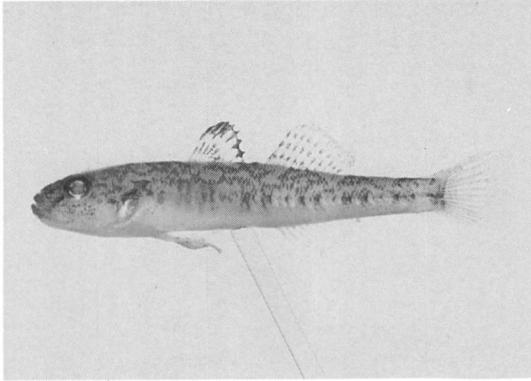


写真4 ビリンゴ *Chaenogobius castaneus*
TKPM-P2005, SL:38.8mm

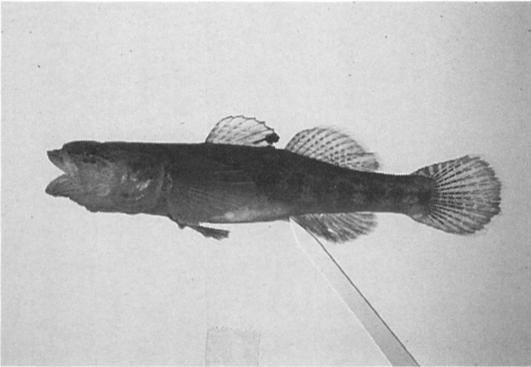


写真5 ウキゴリ *Chaenogobius urotaenia*
TKPM-P2006, SL:74.5mm

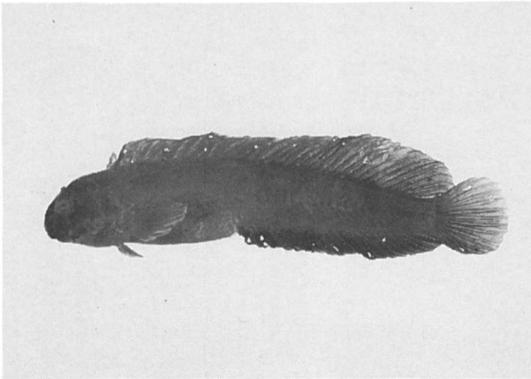


写真6 イダテンギンボ *Omobranchus punctatus*
TKPM-P2008, SL:60.3mm

文 献

- ・明仁親王. 1984. キセルハゼ. p.266 in 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野彌彌・吉野哲夫編. 日本産魚類大図鑑. xx+451pp., 東海大学出版会, 東京.
- ・伊藤猛夫・水野信彦. 1977. 肱川上流水系の魚類を中

心とした河川生態とダム建設の影響評価. 肱川上流水系水産資源調査会.

- ・伊藤猛夫・水野信彦. 1978. 岩松川水系の魚類を中心とした河川生態とダム建設の影響評価. 岩松川水系水産資源調査会.
- ・石野健吾. 1987. ウキゴリ類—すみ場所への適応と分化. p.189-197 in 水野信彦・後藤見編, 日本の淡水魚類. 244pp., 東海大学出版会, 東京.
- ・川那部浩哉・水野信彦監修. 1989. 山溪カラー名鑑日本の淡水魚, 720pp., 山と溪谷社, 東京.
- ・後藤 見. 1987. 淡水魚—生活環から見たグループ分けと分布域形成. p.1-15 in 水野信彦・後藤見編, 日本の淡水魚類. 244pp., 東海大学出版会, 東京.
- ・鈴木寿之・増田 修. 1993. 兵庫県で再発見されたキセルハゼと分布上興味あるハゼ科魚類4種. I.O.P. DIVINGNEWS, 4 (11):2-6, 伊豆海洋アカデミー.
- ・辻 幸一. 1983. 岩松川(愛媛県)感潮域の魚類. 淡水魚. 9号:90-91. 淡水魚保護協会.
- ・辻 幸一. 1986. 岩松川感潮域の魚類(2). 愛媛県立宇和島東高等学校研究紀要, 12:48-59.
- ・辻 幸一. 1991. 肱川水系の魚類(1). 南予生物, 6(1・2):6-9, 南予生物研究会.
- ・辻 幸一. 1993a. 肱川水系の魚類(2)—河口感潮域の魚類. 南予生物, 7(1・2):11-15, 南予生物研究会.
- ・辻 幸一. 1993b. 岩松川感潮域の魚類(3). 南予生物, 7(1・2):16, 南予生物研究会.
- ・中坊徹次編. 1993. 日本産魚類検索:全種の同定. xxxiv+1474pp., 東海大学出版会, 東京.
- ・細谷和海. 1993. コウライモロコ. p.230 in 中坊徹次編, 日本産魚類検索:全種の同定, xxxiv+1474pp., 東海大学出版会, 東京.
- ・水野信彦. 1978. 肱川水系の魚類目録に関するメモ. 昭和52年度肱川生物環境調査業務委託報告書, 15-18, 四国地方建設局大洲工事事務所.
- ・水野信彦. 1979. 肱川中下流域の魚類. 昭和53年度肱川生物環境調査業務委託報告書, 3の1-68, 四国地方建設局大洲工事事務所.
- ・水野信彦. 1987. 肱川・重信川. 第3回自然環境保全基礎調査河川調査報告書, 四国版, 38の1-44, 環境庁.
- ・水野信彦. 1988. 魚類. 河辺川ダム環境影響等調査報告書. 136-162, 河辺川ダム環境影響等調査委員会.
- ・水野信彦. 1989. 河川環境保全調査報告書—瀬戸内海の国宝の島(大三島)のシロウオの生態について—, 8-9, 大三島河川環境保全調査会.
- ・水野信彦監修. 1988. 第三部 魚類調査. 新居浜市の生物相調査報告書—I 河川の動物—. 40-55, 新居浜市. (つじ こういち)